

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講 区分	前期	担当教員					
授業科目名		解剖学Ⅱ						中村 陽市					
		必修・ 選択		必修		授業 形態		講義		時間数 (単位)	30 2	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）													
基礎医学の研究と教育に長年従事した医学博士が、今後医学的な知識を得るための基礎となる人体の正常な形態と構造をその機能と関連付けて教授する。解剖学で人体の基本構造を学習することは、今後の臨床医学にとって基礎となり理学療法アプローチにもつながるので集中して受講してほしい。													
〔到達目標〕 理学療法士として必要・不可欠な人体の基本構造を学習し、内分泌系、末梢神経系、局所および体表解剖学についてその構造、形態的な特徴や機能を理解し、説明できることを目標とする。													
〔使用教材、参考文献等〕 教科書：標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版 医学書院、配布プリント						〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため講義後の復習を中心に名称や機能を理解することを望ましい。							
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)							
1	内分泌系					内分泌腺の位置とホルモンの名称及び作用を説明できる							
2	内分泌系					内分泌腺の位置とホルモンの名称及び作用を説明できる							
3	末梢神経系：脊髄神経					脊髄および脊髄神経の構造と機能が説明できる。							
4	脊髄神経：頸神経叢					頸神経叢の構成と機能を説明できる。							
5	脊髄神経：腕神経叢					腕神経叢の構成と機能を説明できる。							
6	脊髄神経：腕神経叢の枝					筋皮神経・腋窩神経の筋枝と皮枝の分布域と機能を説明できる。							
7	脊髄神経：腕神経叢の枝					正中神経・橈骨神経・尺骨神経の筋枝と皮枝の分布域と機能を説明できる。							
8	脊髄神経：胸神経の枝					胸神経の筋枝と皮枝の分布域と機能を説明できる。							
9	脊髄神経：腰神経叢の枝					腰神経叢の筋枝と皮枝の分布域と機能を説明できる。							
10	脊髄神経：仙骨神経叢の枝・（坐骨神経）					仙骨神経叢の筋枝と皮枝の分布域と機能を説明できる。							
11	局所解剖学と体表解剖学					頭頸部と体幹と上肢の局所解剖と体表解剖							
12	局所解剖学と体表解剖学					下肢の局所解剖と体表解剖							
13	まとめ					内分泌系、中枢神経系を総括できる							
14	まとめ					末梢神経系、局所・体表解剖学を総括できる							
15	期末試験												
〔特記事項・授業時間外における学習〕						〔成績評価の方法と基準〕 科目の評価は、定期試験70％、小テスト（3回）30％の配分で総合しAからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。							

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名								佐藤 俊生		
物理療法学				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数（単位）	30（2）	授業回数
										15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する） 各物理的刺激が生体にどのような反応を与えているか、生理学的知識を応用して理解するとともに、実際の治療にどのように適応していくことができるか理解する。また、物理的刺激を生体に治療として用いるにあたり、治療前後の対象者の状態を把握（評価）できるか理解し、治療効果を検討するための方法を理解する。										
〔到達目標〕 物理療法を実施するために必要な生理学等の基礎を理解し、温熱・寒冷・光線・水治などの各療法の原理と治療目的、適応と禁忌、リスク管理を学習し説明することができる。										
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕					
「物理療法学」（医学書院） 参考文献）物理療法関連書籍、各種論文、その他					シラバスを確認しテキストの内容を事前に確認しておくこと。 授業後には実施内容について復習をすること。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション、総論（定義、種類、現状） 物理療法におけるリスク管理					物理療法の現状を説明できる。 リスクの種類やリスク管理について説明できる。				
2	温熱療法総論 温熱療法の基礎と生理学的作用 一般的な適応と禁忌					温熱療法の基礎的事項を説明できる。 一般的な温熱療法の適応と禁忌を述べられる。				
3	温熱療法各論1 ホットパック・パラフィン					ホットパック・パラフィンの基礎的事項を踏まえ実施方法を説明できる。				
4	温熱療法各論2 超音波療法① 基礎的事項、生体内作用					超音波の基礎的事項と生体内作用について説明できる。				
5	温熱療法各論3 超音波療法② 適応・禁忌、使用方法					超音波の適応・禁忌事項を踏まえて実施方法を説明できる。				
6	寒冷療法総論、寒冷療法の実際					寒冷療法の生理学的作用や実施方法を説明できる。				
7	水治療法総論 各論（部分浴、全身浴、水中運動療法）					水治療法の基礎を説明できる。各種の実施方法を説明できる。また、水中運動療法の注意点を説明でき				
8	中間試験（1～7回目の内容） 復習					ここまで扱った内容を説明できる。				
9	光線療法総論 光線療法各論1 紫外線療法					光線療法の基礎、紫外線療法の特徴を説明できる。				
10	光線療法各論2 赤外線療法、レーザー療法 高周波療法（超短波療法、極超短波療法）					赤外線療法、レーザー療法、高周波療法の基礎的事項と実施方法を説明できる。				
11	電気刺激療法総論①					電気刺激療法の基礎的事項が説明できる。				
12	電気刺激療法総論②					電気刺激療法の基礎的事項が説明できる。				
13	電気刺激療法各論1 治療的電気刺激（TES）①					中枢神経障害に対する治療的電気刺激（TES）について説明できる。				
14	治療的電気刺激（TES）②					末梢神経障害やその他の障害に対する治療的電気刺激（TES）について説明できる。				
15	まとめ、期末試験（9～14回目の内容）					これまでに扱った内容について疾患・症状に応じて適切な実施方法を選択し説明することができる。				
〔評価について〕 中間試験 50％ 期末試験 50％					〔特記事項〕 授業進行に応じて確認テストを実施する（成績評価には含まない）。					

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名								田中 信一			
病態運動学				必修 ・ 選択	必須	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
各関節の動きを中心に基礎的運動学の知識を更に発展・統合し、臨床における諸現象との関連を理解する。 各関節の機能的特徴は、人間の効率的な運動の理解や臨床での障害像の理解に繋がることを意識しながら受講してほしい。理学療法士として医療・介護施設に勤務している教員が実務経験に基づいて理学療法士養成に向けた授業を展開する。											
〔到達目標〕 ・各関節の特徴および関節包内運動を説明することができる。 ・各関節の特徴と障害を関連づけることができる。											
〔使用教材、参考文献等〕 エッセンシャル・キネシオロジー原書第3版（電子書籍付） 南江堂											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	広義の肩関節の構造と機能					肩関節の構造を説明することができる。					
2	肩関節の安定組織、肩峰下空間、インピンジメント 関節包内運動（転がり、滑り、軸回旋）					広義の肩関節の特徴および関節包内運動を説明することができる。					
3	肩関節の構造と障害の関係性					肩関節の特徴と障害を関連づけることができる。					
4	肘関節の構造と機能、関節包内運動 肘関節の構造と障害の関係性					肘関節の関節包内運動を説明することができる。 肘関節の特徴と障害を関連づけることができる。					
5	手関節、手指の構造と機能 三角線維軟骨複合体（TFCC）、手のアーチ、手関節、手指の関節包内運動					手関節、手指の特徴および関節包内運動を説明することができる。					
6	手関節の構造と障害の関係性					手関節、手指の特徴と障害を関連づけることができる。					
7	脊柱・骨盤帯の構造と機能 脊柱の弯曲、腰仙角、腰椎の前弯、腹筋群、背筋群の特徴、椎間関節の動きの特徴					脊柱・骨盤帯の構造および機能の特徴を説明することができる。					
8	確認テスト 前半の振り返り					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	体幹・骨盤帯の構造と障害の関係性					脊柱・骨盤の特徴と障害を関連づけることができる。					
10	股関節の構造と機能、関節包内運動 姿勢戦略					股関節の特徴および関節包内運動を説明することができる。					
11	股関節の構造と障害の関係性					股関節の特徴と障害を関連づけることができる。					
12	膝関節の構造・機能 screw-home movement、関節包内運動、大腿四頭筋と膝蓋骨の作用					膝関節の特徴および関節包内運動を説明することができる。					
13	膝関節の構造と障害の関係性 足部・足関節の構造・機能 足関節の運動と腓骨の運動、					膝関節の特徴と障害を関連づけることができる。					
14	足部のアーチの特徴、ウィンドラス機構、関節包内運動					足部・足関節の構造および機能の特徴を説明することができる。					
15	期末テスト 後半の振り返り					病態運動学で学習した内容のまとめを通じて、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 小テスト、課題（20％） 確認テスト（40％） 期末テスト（40％）					〔特記事項〕 小テスト（または課題）は、毎回の授業で実施し、成績評価に含まれる。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名		渡辺 寛 先生									
神経内科学		必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15		
〔授業の学習内容と心構え〕											
現役医師による神経内科学では、リハビリテーションの対象となる神経筋疾患を中心にその病態と診断を理解し理学療法アプローチを実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能とその障害について学修する。											
〔到達目標〕 理学療法士に求められる神経内科の疾患・罹患の状態・診断検査～所見の取り方及び評価について客観的に理解が出来る。更に理学療法的治療アプローチに関連付けることができる。											
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 神経内科学 医学書院				〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくる。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。							
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	オリエンテーション 解剖学（神経系）の復習				本科目の意義と概論を理解できる。						
2	中枢神経系の解剖と機能（中枢神経系）				中枢神経系で習得した内容を再度理解できる。						
3	中枢神経系の解剖と機能（抹消神経系：脳神経）				抹消神経系（脳神経）の内容を再度理解できる。						
4	中枢神経系の解剖と機能（抹消神経系：脊髄神経）				抹消神経系（脊髄神経）の内容を再度理解できる。						
5	神経症候を学ぶ 錐体路				意識障害・運動麻痺・錐体外路徴候・不随意運動を理解できる。						
6	神経症候を学ぶ 錐体外路・小脳症状				意識障害・運動麻痺・錐体外路徴候・不随意運動を理解できる。						
7	神経症候を学ぶ 感覚路1				感覚障害の分布と特徴を理解できる。						
8	神経症候を学ぶ 感覚路2				感覚障害の分布と特徴を理解できる。						
9	高次脳機能障害（失語・失行）				高次運動障害を理解できる。						
10	高次脳機能障害（記憶・認知）				高次運動障害を理解できる。						
11	高次脳機能障害（構音・嚥下）				高次運動障害を理解できる。						
12	神経学的診察				診察の方法が理解できる						
13	神経学的検査				検査方法について理解できる						
14	前期まとめ				神経内科学総論について理解できる。						
15	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
〔評価について〕 筆記試験小テスト30点と期末テスト70点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。							

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講 区分	前期	担当教員 堀内 秀憲			
授業科目名				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義・演習	時間数 (単位)	30 2	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕											
理学療法士として急性期病院、整形外科クリニック、老人保健施設、訪問看護ステーションで勤務した経験を持ち、スポーツ選手に対する理学療法を行っている担当者が、理学療法を実施していくなかで必要と考えられる基礎的な内容について授業を行う。											
〔到達目標〕											
理学療法の中で中核となる運動療法学の基本的な知識を習得し、説明することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕											
Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学 株式会社メジカルビュー 配布資料											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション アライメントと筋出力					アラメントの違いにより筋出力が変化することを知る 画一的に「〇〇すれば良くなる」ではないことを知る					
2	運動療法とは クリニカルリーズニング（ボトムアップとトップダウン）					理学療法とは、運動療法とは リハビリテーションの中止基準について理解をすること					
3	歩行と生活					歩行速度と生活、歩行速度Upに注目した関節の運動方向を考えることができる					
4	姿勢・動作、機能と傷害					姿勢・動作、機能と傷害についての関係について考えられる					
5	関節可動域と運動療法					関節可動域制限が起こる理由を説明することができる 関節可動域拡大について説明することができる					
6	筋機能と運動療法					運動療法により筋機能がどう変化していくかを説明することができる					
7	中間試験 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
8	基本動作と運動療法 寝返り動作のバイオメカニクス					寝返り動作のバイオメカニクスについて説明することができる					
9	協調性機能と運動療法					協調性に対する運動療法について説明することができる					
10	基本動作と運動療法 起き上がり動作のバイオメカニクス					起座動作のバイオメカニクスについて説明することができる					
11	バランス機能と運動療法					バランス機能に対する運動療法について説明することができる					
12	前庭機能と運動療法					前庭機能に対する運動療法について説明できる。					
13	基本動作と運動療法 起立・着座動作のバイオメカニクス					起立・着座動作のバイオメカニクスについて説明することができる					
14	期末試験 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
15	まとめ					運動療法に関する全般的な考えを深める					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
評価は筆記試験で行う。 筆記試験はレポートや小テスト、中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。 お互いの身体を使いながら運動療法に関する実技を行うことがある。毎回、Tシャツはハーフパンツ等の動ける服装を用意すること。						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名								伊藤 春雄			
内 科 学				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 教科書の内容を主軸とした講義形式で実施する。板書の筆記のみでなく、講義のポイントをメモにして整理する。 代表的な徴候については、実際に体現できるように工夫をする。											
〔到達目標〕 内科疾患の主要なものについて、簡潔に説明ができる。余裕があれば、巻末のセルフアセスメントも実施する。											
〔使用教材、参考文献等〕 内科学(第4版第1刷:2020. 11. 15) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 医学書院					〔準備学習・時間外学習〕 教科書を音読できるようにする。個別の項目を丸暗記しようとせず、いくつかの項目に関連付けた文章を作成して理解し、説明するようにする。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	1. 内科学とは					内科学にとってのリハビリテーションの意義を説明できる					
2	2. 内科的診断と治療の実際 : 診療録					問題指向型診療録(POMR)を説明できる					
3	診察法 : 視診、触診、打診、聴診					医療人として真摯な診察ができ、所見を取れる					
4	臨床検査、内科的治療					検査、投薬について基本的な説明ができる					
5	3. 症候学					各種徴候の生理・病理と主な原因疾患をまとめる					
6	4. 循環器疾患(1) : 総論					解剖・生理を医学的観点でまとめる					
7	循環器疾患(2) : 各論					各疾患について、簡潔に説明できる					
8	中間試験					①～⑦回目までの内容で出題する					
9	循環器疾患(3) : 各論					各疾患について、簡潔に説明できる					
10	5. 呼吸器疾患(1) : 総論					解剖・生理を医学的観点でまとめる					
11	呼吸器疾患(2) : 各論					各疾患について、簡潔に説明できる					
12	6. 消化管疾患(1) : 総論					解剖・生理を医学的観点でまとめる					
13	消化管疾患(2) : 各論					各疾患について、簡潔に説明できる					
14	7. 肝胆膵疾患(1) : 総論					解剖・生理を医学的観点でまとめ、各疾患について、簡潔に説明できる					
15	期末試験					①～⑭回目までの内容で出題する					
〔評価について〕 評価 中間試験(30点)と期末試験(70点)の合計100点で評価する。 評価は学則規定に則る。					〔特記事項〕						

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科	理学療法士科	コース・部	Ⅱ部	学年	2	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名								繁森 将太			
理学療法検査・測定法				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
病院での実務経験ある理学療法士が理学療法を施行するにあたっての、適切な評価方法を学ぶ。安全な検査・測定を実施できるよう座学と実技にて授業を行なう。授業ごとに予習・復習を欠かさないよう充分留意すること。											
〔到達目標〕 理学療法における身体機能の評価方法を正しく理解し、安全かつ正確に行なえるようになる。また、学んだ知識、技術を他者に分かりやすく、正確に伝えられるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕 理学療法評価学 金原出版第6版、リハビリテーション基礎評価学 第2版（羊土社）、ベットサイドの神経の診かた、											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	前期の概要説明（オリエンテーション）、FIM					オリエンテーション FIMの役割を理解し、説明できる					
2	FIM、BI					FIM、BIの役割を理解し、説明する					
3	脳血管疾患とは					脳血管疾患の病態や症状を理解する					
4	ブルンストローム・ステージ（Brunnstrom stage：Brs）					Brsの検査を理解し、実施できる					
5	SIAS：Stroke Impairment Assessment Set					SIASの検査を理解し、実施できる					
6	感覚検査（表在感覚・痛覚）					感覚検査を理解し、実施できる					
7	感覚検査（深部感覚・複合感覚）					感覚検査を理解し、実施できる					
8	筋緊張検査（筋トーンス検査）					筋緊張検査を理解し、実施できる					
9	表在反射・深部腱反射					反射を理解し、実施できる					
10	病的反射					反射を理解し、実施できる					
11	バランス検査					バランス検査が実施できる					
12	バランス検査					バランス検査が実施できる					
13	バランス検査					バランス検査が実施できる					
14	振り返り・復習					前期の内容を総復習する。テスト説明					
15	期末テスト(forms)					期末テスト					
〔評価について〕 レポート（20％）、forms試験（80％） 60%未満の場合授業態度で最大10%まで加味する。					〔特記事項〕 服装：動きやすい格好（例：半袖、半ズボン、ジャージ、ケイシー可、ジーパン、チノパン、スカート、ワンピース不可） 触診があるため半袖半ズボンが好ましい。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科II部		学年	2	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名		島田 章則									
病理学		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	授業 回数	15		
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する） 高齢化社会を迎え、健康・スポーツへの関心が高まる中で、理学療法士の果たす役割はますます大きくなっている。運動機能障害に加え、様々な疾患を抱えている可能性がある対象者に適切なハビリテーションを行いQOL向上を促すためには、患者の背景にある諸疾患の病理発生を理解し、幅広い病態について考え、症状の仕組みについて学んでおくことが必要である。スポーツでの外傷・入院・リハビリの自身の経験を踏まえ、わかりやすく実際の解説を行い「認められる専門家」育成を心掛けたい。											
〔到達目標〕 疾患の病因・病態を病理形態学的変化から理解し、疾患発生に関する基礎的知識を習得する。身体の全身状態を観察・把握し、対象者が有する様々な疾患のつながりを考えることができるようになる(例：脳梗塞などの脳血管疾患による運動機能障害を有する患者は、高血圧や糖尿病などの内科的疾患が背景にあることが多い)。											
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学 病理学											
回	〔授業単元〕				到達目標(できるようになること)						
1	病因、退行性病変、進行性病変				病因（外因、内因）、変性、萎縮、壊死、肥大、過形成、化生、創傷治癒（肉芽組織、瘢痕）を理解できる。						
2	代謝障害、循環障害				各栄養素（蛋白質、脂質、糖質）別代謝疾患、局所・全身循環障害を理解できる。						
3	免疫（アレルギー、自己免疫疾患）				アレルギー性組織傷害（アレルギー反応）、自己免疫疾患の種類・特徴・例を理解できる。						
4	炎症、感染症				炎症の特徴、炎症にかかわる細胞、炎症・感染症の種類、原因となる病原微生物を理解できる。						
5	腫瘍				腫瘍の定義、悪性腫瘍の特徴、転移形式、発がんの原因・メカニズムを理解できる。						
6	老化、先天異常・奇形				加齢に伴う疾患、先天異常・奇形（遺伝子・染色体異常、疾患）を理解できる。						
7	循環器（心臓、血管）の病理				脊柱の構造が理解できる。 頸椎・胸椎・腰椎の構造が理解できる。						
8	呼吸器の病理				呼吸器の構造・機能、肺炎、肺うっ血・肺水腫、気管支の疾患、肺腫瘍を理解できる。						
9	消化器の病理				消化器の構造・機能、胃・小腸・大腸・肝臓・膵臓の炎症、疾患と腫瘍についての理解度を深める。						
10	神経系の病理				中枢神経系の構造・特徴、脳血管障害（脳梗塞、脳出血）、感染症、神経変性性疾患、外傷を理解できる。						
11	運動器の病理				運動器の構造・機能、骨・関節・筋肉の疾患（骨折、腫瘍、関節リウマチ等）とその特徴を理解できる。						
12	泌尿・生殖器の病理				泌尿・生殖器の構造・機能、腎炎、糸球体病変、膀胱炎、前立腺疾患、生殖器感染症・腫瘍を理解できる。						
13	内分泌臓器、皮膚、感覚器の病理				内分泌の仕組み、各種ホルモンの分泌亢進・低下に伴う疾患、皮膚・眼・耳の構造と疾患を理解できる。						
14	造血器の病理				正常な造血、骨髄・リンパ節の構造と機能・疾患、貧血の機序、白血病・リンパ腫を理解できる。						
15	期末テスト 解説				授業全体の内容のテストにより理解度の判定を行う。習得不十分なところを把握し、理解度を深める。						
〔授業時間外における学習〕 毎回の授業で、1.講義開始時に、講義該当部分の教科書の重要点の確認、2.講義の最後に、理解度の把握を目的とした小テスト（5問：2問は当日の授業内容、3問は前回の授業内容から出題）を実施します。毎授業において教科書の重要部分を読んだの予習および復習をしておくこと。					〔成績評価について〕 評価は小テスト70点満点＋期末試験30点満点の合計100点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								佐藤 俊生			
障がい者スポーツ論				必修・選択	必修	授業形態	講義・実技	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
スポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援するための知識を習得する。また中級パラスポーツ指導員資格を有する理学療法士が授業を行うことで、理学療法士として障がい者のスポーツ活動が支援できるよう、知識、技術を習得する。											
〔到達目標〕											
パラスポーツに関する制度や障がい者の特徴、安全管理などについて学習するとともに、実際のスポーツに参加し、障がい者の方と交流を図る。そして未経験や初心者の方の障がい者に対してスポーツ活動への参加を促すことができる。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
教材) 授業内で配布 参考文献) 障がいのある人のスポーツ指導教本（ぎょうせい、R2） 障がい者スポーツ指導教本（ぎょうせい、H28）						授業で実施した内容に関して自分の意見を述べられるように復習すること。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	「しょうがい」とは何か パラスポーツに関する諸施策					各障がいに関する法律や障がい者福祉施策とパラスポーツに関する施策を説明できる。					
2	コミュニケーションスキルの基礎					パラスポーツ指導者として必要なコミュニケーションスキル・ソーシャルスキルを説明できる。					
3	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質					スポーツにおけるインテグリティを理解し、指導者に求められる資質を説明できる。					
4	パラスポーツの意義と理念 パラスポーツの意義や理念について理解する					パラスポーツの意義を説明できる。					
5	安全管理、応急処置について学習する					安全管理、応急処置の手順を説明できる。					
6	障がい者の基礎知識1（肢体不自由、内部障がい）					肢体不自由、内部障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。					
7	障がい者の基礎知識1（視覚障がい、聴覚・音声言語障がい）					視覚障がい、聴覚・音声言語障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。					
8	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫（ボッチャ）					実際に競技を体験し、実施上の留意点や競技特性を説明できる。					
9	障がい者の基礎知識（知的） 知的障がいと精神障がいについて理解する					知的障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。					
10	障がい者の基礎知識（精神） 精神障がいと精神障がいについて理解する					精神障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。					
11	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫（シッティングバレーボール）					実際に競技を体験し、実施上の留意点や競技特性を説明できる。					
12	パラスポーツ推進の取り組み					地域のパラスポーツ振興の現状について学び、地域で行われている教室や大会に参加する準備ができ					
13	全国障がい者スポーツ大会の概要 全国障がい者スポーツ大会目的と実施内容について					全国障がい者スポーツ大会の目的・意義を学び、未経験者や初心者にスポーツ参加の動機づけができ					
14	道具について知ろう 義足、車椅子、杖、補装具					パラスポーツでよく用いられる用具を知り、スポーツ実施上の工夫を述べられる。					
15	パラスポーツの実際 当事者との交流					パラスポーツを実際に行っている方との触れ合いを通じ、障がい者にとってのスポーツの必要性を説明					
〔評価について〕 中間試験（レポート課題）40％ 期末試験（レポート課題）40％ 当事者との交流の課題 20％					〔特記事項〕						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講 区分	集中授業	担当教員 ILC Paul Searle			
授業科目名				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	15 (1)	授業 回数	8
医学英語											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 患者が来院して、外来受付から各科での受診、検査、治療までの各場面で基本的な英語コミュニケーション力を習得するため、基本語彙や重要表現を「聞いて理解できる」「話すことができる」「読んで理解できる」「書いて表現することができる」ように、ロールプレイなどのアクティビティを通して学習する。 教員経験:TESOL(英語教授法)の資格を取得し、30年以上英語教育に携わる。2000年より(株)国際教育社において専門学校での英語教育(基礎英語、ビジネス英語、医学英語)に携わる。											
〔到達目標〕 病院現場での英語での会話を理解し、英語での対応が必要な状況で貢献できるようになる。授業中のコミュニケーション練習により一般病棟や理学療法科での英語話者である患者の診察、援助、指示する際に必要となる英語のインプット、アウトプットの両方の能力を養う。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
医療英語コミュニケーション 国際教育社					シラバスを確認しテキストの内容を事前に確認しておくこと。 授業後には実施内容について復習をすること。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション Chapter 1 受付					コースオリエンテーション 受付について説明できる。 患者に丁寧に質問することができる。					
2	Chapter 3 症状(1)痛み Chapter 4 症状(2)その他					体の部位を説明できる。痛みについて質問できる。 患者の症状の詳細を確認できる。					
3	Chapter 5 問診(1)既往歴・家族歴 Chapter 6 問診(2)アレルギー・生活習慣					患者の既往歴を確認できる。 患者さんの今の症状や生活習慣を確認できる。					
4	Chapter 7 内科(1)身体計測・診察時の表現					命令形を使って、治療について患者に指示できる。 条件文を使って、丁寧に患者に指示できる。バイタルサインを測定できる。					
5	Chapter 10 検査と処置 Chapter 12 整形外科・整骨院(接骨院)					患者に検査と処置(の手順)について説明できる。 検査中、患者に指示できる。 骨の名称を知る・言える。患者の傷害を確認できる。					
6	Chapter 13 リハビリテーション(1) Chapter 14 リハビリテーション(2)					関節可動域に関する語彙を知る。 リハビリ治療用の機器の名称、筋肉の名称を知る。 リハビリ治療用の機器の使い方を説明できる。					
7	復習 定期試験					定期試験に向けて復習する。 定期試験を受験する。					
8	試験解説 全体振り返り					定期試験の解説および全体の授業の振り返りをおこない、講義全体の理解を深める。					
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
〔評価について〕 定期試験(筆記) 100%					〔特記事項〕						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						谷本 幸洋			
整形外科学		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
現役の整形外科医師による、高頻度に遭遇しうる整形外科疾患の概要を理解し、単に臨床上の基礎知識にとどまらず幅広く疾患を窮極して診ることが出来るよう運動器疾患の診断、治療・後療法、予防法について学修する。学生にはスポーツ医学の視点も含め興味関心を持って望んで欲しい。									
〔到達目標〕									
各整形外科疾患を全身性疾患から胸郭より上位の各疾患について、概要・疫学・症状・診断・治療について理解できる。									
〔使用教材、参考文献等〕 標準 整形外科学:医学書院					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書んでくこと。 授業後は復習をして用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	骨				骨の仕組み・解剖・生理等を理解する				
2	関節・筋・神経				関節・筋・神経の仕組み・解剖・生理を理解する				
3	整形外科的現症の取り方・検査				整形外科に特有の現症・所見の取り方、検査について理解する				
4	保存療法・手術療法				整形外科における保存療法・手術療法の一般的な知識について理解する				
5	関節リウマチ				関節リウマチの疾患特性、特徴的な所見、治療等について理解する				
6	変形性関節症・循環障害・阻血壊死性疾患				変形性関節症の疾患特性、特徴的な所見、治療等について理解する				
7	先天性疾患				整形外科領域でみられる先天性疾患について理解する				
8	中間テスト				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める				
9	代謝性骨疾患				特に骨粗鬆症と骨軟化症・くる病について理解する				
10	骨腫瘍・軟部腫瘍・神経筋疾患				骨軟部腫瘍について理解する。整形外科で診る可能性がある神経筋疾患について理解する				
11	肩関節				肩関節における損傷や異常について理解が出来る。				
12	肘関節				肘関節における損傷や異常について理解が出来る。				
13	手関節・手				手関節・手における損傷や異常について理解が出来る。				
14	頸椎・胸郭				頸椎・胸郭における損傷や異常について理解が出来る。				
15	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕					

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名						授業形態	講義	時間数 (単位)	30 2	授業回数	15
生理学		必修/選択		必修							
〔授業の学習内容と心構え〕											
生理学では、循環、呼吸、消化、排泄など体内の環境を一定に保つための機構と、その調節を行う自律神経、ホルモンについて学ぶ。 解剖学では体の構造を学ぶのに対し、生理学は体の機能を知ることが目的とする。そのため生理学の学習は「覚える」ことより「理解する」ことが大切であることに注意して取り組んでほしい。											
〔到達目標〕											
循環、呼吸、消化、排泄など体内環境を一定に保つための機構と、その調節を行う自律神経、ホルモンについての基礎的事項を学び、その内容を説明することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
標準理学療法学・作業療法学 生理学 第6版(医学書院)					授業前の予習として当日分の教科書を読んでおくこと。授業後は毎回講義ノートを配布する						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	血液の生理学					血液の機能について説明できる					
2	循環器の生理学 (1)					循環器の機能、心電図について説明できる					
3	循環器の生理学 (2)					血圧と心臓の収縮特性について説明できる					
4	循環器の生理学 (3)					血液循環とその調節について説明できる					
5	内蔵機能の調節 (1)					自律神経系について説明できる					
6	内蔵機能の調節 (2)					内分泌系とヒトのホルモンについて説明できる					
7	呼吸器の生理学					呼吸器の機能について説明できる					
8	泌尿器の生理学					泌尿器の機能について説明できる					
9	体液と体温					体液の機能と体温の調節について説明できる					
10	栄養素と代謝					栄養素と代謝について説明できる					
11	消化器の生理学 (1)					消化管の機能について説明できる					
12	消化器の生理学 (2)					栄養素と吸収、肝臓の機能について説明できる					
13	生殖と発生 (1)					生殖器の機能について説明できる					
14	生殖と発生 (2)					ヒトの発生・成長・老化について説明できる					
15	期末試験					期末試験による理解度の把握と解説					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
評価は学則規定に準じ、理解度確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。					毎回の授業ごとに配布する講義ノートは、あくまで板書の代わりになるものであり、これを基に各自が自分のノートを作成すること。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講区分	後期	担当教員 山本 敏之			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	実習 座学	時間数 (単位)	30 2	授業回数	15
理学療法概論									
〔授業の学習内容と心構え〕 現在も臨床で活動している理学療法士の教員が以下について実施していく。 理学療法に関わる実技(ストレッチ、筋トレなどの運動療法)を実技形式にて反復実践する。 初期はティーチングを主とし、徐々に自ら考え実践できるように進め、技術の修得を目指す。 また、理学療法についての基礎知識を座学を主とし実施していく。									
〔到達目標〕 ①理学療法の定義や具体的な内容、実際の流れなどを知り、理学療法士にまつわる法律や働く環境なども含めた概要を理解する。 ②理学療法士を目指すうえで最低限必要となる知識を身につける									
〔使用教材、参考文献等〕			〔準備学習・時間外学習〕						
シンプル理学療法シリーズ 理学療法概論テキスト 改訂第4版 南江堂 配布資料			授業後には授業内容を復習すること。						
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	理学療法とは：理学療法の定義と各種技術について			理学療法の定義を理解し大まかな仕事内容のイメージをつける					
2	理学療法を実施する際に必要な技術・態度			理学療法を実施する上で必要な技術・態度を知り理解する					
3	理学療法士の役割と理学療法の対象と領域について			様々な障害を知り、理学療法士として求められる役割を理解する					
4	理学療法を実施する際に必要な技術・態度			理学療法を実施する上で必要な技術・態度を知り理解する					
5	理学療法の実際の流れ（＋臨床的思考について）			実際の流れを通して理学療法士の仕事をより具体的に理解する					
6	理学療法を実施する際に必要な技術・態度			理学療法を実施する上で必要な技術・態度を知り理解する					
7	中間試験			現時点での知識・技術を確認し、不足している部分に対する振り返りを行うことでより理解度をUp					
8	理学療法士はどんな所で活躍しているのか			理学療法士が求められている活躍の場を理解する					
9	理学療法士はどんな所で活躍しているのか			理学療法士が求められている活躍の場を理解する					
10	理学療法と診療報酬について：医療保険と介護保険			医療保険と介護保険について知り、理学療法に関わる報酬について理解する					
11	理学療法士の職能について			日本における理学療法士による職能団体と世界の団体を知り理解する					
12	理学療法士にまつわる法律について			理学療法士および作業療法士法の概要について理解する					
13	理学療法士にまつわる法律について			理学療法士に関わる医療福祉関連の法律を理解する					
14	期末試験および振り返り			現時点での理解度を確認し、分からない部分に対する振り返りを行うことでより理解度をUpする					
15	まとめ			理学療法についての理解度をUpする					
〔評価について〕 中間試験、期末試験としてFormsにて試験を行う。合計100点満として60点以上で合格とする。			〔特記事項〕 授業は教科書を用いて行う。教科書に書いてある語句の読み方や意味に関しては、各自予習や調べ学習を行い、準備することが望ましい。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講区分	後期	担当教員 中村 陽市 先生			
授業科目名		解剖学Ⅰ		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60 4	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
基礎医学の研究と教育に長年従事した医学博士が、今後医学的な知識を得るための基礎となる人体の正常な形態と構造をその機能と関連付けて教授する。解剖学で人体の基本構造を学習することは、今後の臨床医学にとって基礎となり理学療法アプローチにもつながるので集中して受講してほしい。											
〔到達目標〕 理学療法士として必要・不可欠な人体の基本構造を学習し、呼吸器系・神経系についてその構造、形態的な特徴や機能を理解し、説明できることを目標とする。											
〔使用教材、参考文献等〕 教科書：標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第6版 医学書院、配布プリント					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため講義後の復習を中心に名称や機能を理解することを望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	呼吸器系：鼻腔、咽頭					鼻腔、咽頭の構造と機能を説明できる。					
2	呼吸器系：喉頭、気管、気管支					喉頭、気管、気管支の構造と機能、発声の仕組みについて説明できる。					
3	呼吸器系：肺					肺の構造を説明できる。					
4	呼吸器系：胸膜、縦郭					胸膜、縦郭の構造を説明できる。					
5	神経系総論：神経系の区分、神経組織					神経系の構造と機能を説明できる。					
6	髄膜、脳室系					髄膜と脳室系の構造と機能を説明できる。					
7	中枢神経系：脊髄					脊髄の構造と働きを説明できる。					
8	中枢神経系：脊髄					脊髄の構造と働きを説明できる。					
9	上行性伝導路、下行性伝導路：錐体路、錐体外路					上行性伝導路の経路、下行性伝導路（錐体路・錐体外路）を説明できる。					
10	視覚伝導路、嗅覚伝導路、脊髄反射					視覚伝導路・嗅覚伝導路・脊髄反射を説明できる。					
11	中枢神経系：延髄、橋					延髄・橋の構造と機能を説明できる。					
12	中枢神経系：延髄、橋					延髄・橋の構造と機能を説明できる。					
13	中枢神経系：網様体、中脳、小脳					網様体・中脳・小脳の構造と機能を説明できる。					
14	中枢神経系：間脳					間脳の構造と機能を説明できる。					
15	大脳半球					大脳半球の構造を説明できる					
16	大脳基底核					大脳基底核の構造と機能を説明できる。					
17	大脳半球					大脳半球の機能局在構造と機能を説明できる。					
18	大脳半球					大脳半球の機能局在構造と機能を説明できる。					
19	脳神経					脳神経の名称と機能、障害を説明できる。					
20	脳神経					脳神経の名称と機能、障害を説明できる。					
21	泌尿器系：腎臓					腎臓の位置と構造を説明できる。					
22	泌尿器系：腎臓、尿管、膀胱					尿の生成と尿路を説明できる。					
23	生殖器系：男性生殖器					男性生殖器の構造と機能を説明できる。					
24	生殖器系：女性生殖器（卵巣、卵管）					卵巣と卵管の構造と機能を説明できる。					
25	生殖器系：女性生殖器（子宮、腔、外陰部）					子宮・腔・外陰部の構造・機能・特徴を理解する					
26	感覚器系：外皮、嗅覚器、味覚器					外皮・嗅覚器・味覚器の構造と機能を説明できる。					
27	感覚器系：視覚器					視覚器の構造と機能、障害を説明できる。					
28	感覚器系：視覚器					視覚器の構造と機能、障害を説明できる					
29	感覚器系：平衡聴覚器					平衡聴覚器の構造と機能を説明できる					
30	期末試験										
〔特記事項・授業時間外における学習〕					〔成績評価の方法と基準〕 科目の評価は、定期試験70％、小テスト（3回）30％の配分で総合しAからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名		人間発達学						松野竜一郎			
		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	授業 回数	15		
〔授業の学習内容と心構え〕											
人間発達の基礎および運動発達と反射について学び、小児から成人における正常運動および異常運動の理解に役立てる											
〔到達目標〕 乳幼児の発育について知り、運動発達と反射についての理解を深める											
〔使用教材、参考文献等〕 運動発達と反射（医歯薬出版）											
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	オリエンテーション、人間発達とは				人間発達学とは何かを知る						
2	発達の定義と発達の原則				発達とは何か、原則を知る						
3	乳幼児の形態と機能の発達				乳幼児の発育の基礎的な知識を得る						
4	運動発達と反射：反射とは、運動制御と神経発達				反射とは何か、神経発達の説について知る						
5	反射を知る目的と用語				反射とは何かを知る、目的と用語を理解する						
6	原始反射（１）				原始反射の具体的な刺激と反応を知る						
7	原始反射（２）				原始反射の具体的な刺激と反応を知る						
8	確認テストと振り返り				原始反射の具体的な刺激と反応を知る						
9	原始反射（３）				原始反射の具体的な刺激と反応を知る						
10	原始反射（４）				原始反射の具体的な刺激と反応を知る						
11	原始反射（５）				原始反射の具体的な刺激と反応を知る						
12	立ち直り反応（１）				立ち直り反応の具体的な刺激と反応を知る						
13	立ち直り反応（２）				立ち直り反応の具体的な刺激と反応を知る						
14	平衡反応				平衡反応の具体的な刺激と反応を知る						
15	期末試験と振り返り				試験で振り返る						
〔評価について〕 小テスト2割、確認テスト3割、期末試験5割の総合点で判定する					〔特記事項〕						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	前期	担当教員		
授業科目名								岩佐 浩之 先生		
				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	授業 回数
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）										
創業100年の老舗の三代目として、飲食店を経営し、また多岐にわたりビジネスを立ち上げ(国内・インド・フィリピン・中国・モルディブ・タイなど)現在に至る。流通業界では様々な仕入れ販売の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務では、製造から営業までを経験する。現在3社を経営し介護施設の理事を務めるカウンセラーが心理学をわかりやすく講義します。										
〔到達目標〕 理学療法士として必要・不可欠な人体の成り立ちや携帯・構造に関する基礎的知識を学ぶ 自分とのコミュニケーション・1対1のコミュニケーション・1対多グループコミュニケーションを学び、活用できるようになる。										
〔使用教材、参考文献等〕 毎回の授業で配布					〔準備学習・時間外学習〕 世の中の動きを見て質問する					
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)					
1	目標設定・講師自己紹介・オリエンテーション15回の流れ				目標設定の仕方・目標とは何かを理解する。 目標を立てられるようになる。					
2	人脈				人脈の作り方・整理の仕方を学ぶ。 自分の人脈を整理する。					
3	経済的健康 その1 収入の種類				・従業員 ・自営業 ・オーナー ・投資家など収入の種類を理解する。					
4	目標達成の仕方				①情報 ②モチベーション ③イメージ ④願望 15のステップ一つ一つを理解する。					
5	目標達成の仕方				⑤決断する ⑥目標設定 ⑦プランを立てる ⑧夢泥棒⑨仲間探し 15のステップ一つ一つを理解する。					
6	精神的健康				心の病気について知り、対処法を身に付ける					
7	身体的健康				病気のメカニズム・対処法を身に付ける。					
8	心理テスト				エゴグラムの実施 自分の心の癖を知る。					
9	マーケティング（流通心理学）・マネジメント				自分自身を社会にどう売り出していくか学ぶ					
10	マーケティング（流通心理学）・マネジメント				様々なマーケティングの基本理論を学ぶ					
11	マーケティング（流通心理学）・マネジメント				様々な企業のマーケティングを学ぶ					
12	コトラー心理学				コトラー心理学の基本を学び、自分の考え方に取り入れる					
13	スティーブン・コーヴィ				7つの習慣を中心に、考え方の基本を学び、いつか使えるようになる。					
14	質疑応答				稲盛和夫の考え方を学ぶ。					
15	定期テスト									
〔評価について〕 期末試験50% 小テスト50%で59%以下を不合格とする					〔特記事項〕 ーコマは、ジグソーパズルのワンピースのようなものです。欠席した際は、情報を取って補ってください。					

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科	理学療法士科	コース・部	Ⅱ部	学年	1	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名								繁森 将太			
理学療法評価概論				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
病院での実務経験ある理学療法士が理学療法を施行するにあたっての、適切な評価方法を学ぶ。安全な検査・測定を実施できるよう座学と実技にて授業を行なう。授業ごとに予習・復習を欠かさないよう充分留意すること。											
〔到達目標〕 理学療法における身体機能の評価方法を正しく理解し、安全かつ正確に行なえるようになる。また、学んだ知識、技術を他者に分かりやすく、正確に伝えられるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕 理学療法評価学 金原出版第6版リハビリテーション基礎評価学 第2版（羊土社）、新・徒手筋力検査法第10版、授業プリント											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	総論					評価を何のために行うのか理解できる。 検査の信頼性・正確性を理解できる。					
2	医療面接、情報収集					医療面接、情報収集を理解、実施できる。					
3	意識障害、全身状態の評価					覚醒状態、全身状態の評価方法を理解、実施できる。					
4	姿勢、形態測定①					形態測定を理解、実施できる					
5	形態測定②					形態測定を理解、実施できる					
6	関節可動域検査①					関節可動域検査を理解（リスク管理を含む）できる					
7	関節可動域検査②					上肢の基本軸、移動軸を理解し、可動域測定が実施できる					
8	関節可動域検査③					下肢の基本軸、移動軸を理解し可動域測定が実施できる					
9	関節可動域検査④					体幹の基本軸、移動軸を理解し、可動域測定が実施できる					
10	中間試験 徒手筋力検査①					9回までの内容のテスト。徒手筋力検査（段階）を理解できる。上肢の代償動作を理解し、徒手筋力検査が実施できる					
11	徒手筋力検査②					上肢の代償動作を理解し、徒手筋力検査が実施できる					
12	徒手筋力検査③					上肢、下肢の代償動作を理解し、徒手筋力検査が実施できる					
13	徒手筋力検査④					下肢の代償動作を理解し、徒手筋力検査が実施できる					
14	徒手筋力検査⑤ 実技テスト説明					下肢の代償動作を理解し、徒手筋力検査が実施できる 実技テストの説明					
15	実技試験					後期の内容を総復習する。					
〔評価について〕 中間テスト（50％） 期末テスト（50％）にて評価する。 上記で60％未満の場合、授業態度等を加味して最大10％加点を行う。					〔特記事項〕 服装：動きやすい格好（例：半袖、半ズボン、ジャージ、ケイシー可、ジーパン、チノパン、スカート、ワンピース不可） 触診などがあるため半袖半ズボンが好ましい。						

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	後期	担当教員		
授業科目名		運動機能論Ⅱ						田中 信一		
		必修 ・ 選択	必須	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	授業 回数	15	
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）										
人間の運動機能の基礎となる筋系の基礎を習得する授業を行なう。筋を理解することは、機能評価、動作の分析、ストレッチ、筋力トレーニング、動作練習と様々な分野につながる。理学療法士を目指すものにとって、個々の筋の起始・停止、走行、作用、支配神経やその髄節レベルを熟知しておく必要があることを念頭に受講してほしい。理学療法士として医療・介護施設に勤務している教員が実務経験に基づいて理学療法士養成に向けた授業を展開する。										
〔到達目標〕										
・個々の筋の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。 ・筋の配置を述べることができる。 ・筋の特徴を区別することができる。										
〔使用教材、参考文献等〕										
解剖学 第6版（医学書院）										
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 第4章；筋系 上肢帯の筋					骨格筋の構造を述べることができる。骨格筋の形状、作用を区別できる。				
2	第4章；筋系 筋学各論 肩関節の筋、胸筋群					上肢帯の筋の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べる ことができる。筋を区別することができる。				
3	第4章；筋系 筋学各論 上腕の屈筋群、伸筋群					上腕の屈筋群、伸筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称 を述べることができる。筋を区別することができる。				
4	第4章；筋系 筋学各論 肩甲帯の筋					肩甲帯の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べる ことができる。筋を区別することができる。				
5	第4章；筋系 筋学各論 肩甲帯の筋、前腕屈筋群					肩甲帯の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べる ことができる。筋を区別することができる。				
6	第4章；筋系 筋学各論 前腕の屈筋群、前腕の伸筋群					前腕の屈筋の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べる ことができる。筋を区別することができる。				
7	第4章；筋系 筋学各論 前腕の伸筋群、手の筋					前腕の伸筋群、手の筋の起始・停止、作用、支配神経の名称 を述べることができる。筋を区別することができる。				
8	確認テスト 解説、					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	第4章；筋系 筋学各論 内・外寛骨筋群					内・外寛骨筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べる ことができる。筋を区別することができる。				
10	第4章；筋系 筋学各 大腿伸筋群、大腿の内転筋群					大腿伸筋・内転筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を 述べることができる。筋を区別することができる。				
11	第4章；筋系 筋学各論 大腿屈筋群、下腿伸筋群					大腿屈筋群、下腿伸筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を 述べることができる。筋を区別することができる。				
12	第4章；筋系 筋学各論 腓骨筋群、下腿屈筋群					腓骨筋群、下腿屈筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を 述べることができる。筋を区別することができる。				
13	第4章；筋系 筋学各論 頸部の筋 腹部、背部の筋					頸部、腹部、背部の作用、支配神経の名称を述べる ことができる。筋を区別することができる。				
14	第4章；筋系 筋学各論 咀嚼筋、表情筋					咀嚼筋、表情筋の作用、支配神経の名称を述べる ことができる。筋を区別することができる。				
15	総括 期末試験					運動機能論で学習した内容のまとめを通じて、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕					〔特記事項〕					
課題 20%					課題は、毎回の授業で実施し、成績評価に含まれる。別途、Formsの問題を配布する各自予習、復習に活用すること。授業では筋の触診法も紹介する。自分の身体で確かめ復習することを勧める。					
確認テスト40%										
期末テスト40%										

2025年度 シラバス

東京メディカルスポーツ専門学校

学科	理学療法士科	コース・部	Ⅱ部	学年	1	開講区分	後期	担当教員				
授業科目名				必修・選択	必修	授業形態	講義	鈴木広大				
運動学								時間数(単位)	60 4	授業回数	30	
(授業の学習内容と心構え) (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)												
回復期リハビリテーション病院、急性期脳神経外科、整形外科クリニックで実務経験のある理学療法士教員が、理学療法士になるにあたって、必要な運動の知識をバイオメカニクス、解剖学、生理学などの多くの観点より授業を行う。 毎授業、しっかり復習を行い、必要な知識を身につけるようにしてもらいたい。												
(到達目標) 1)運動の基礎理論・生体の構造と機能に関するキーワードに慣れ、理解に繋げる。 2)生体の運動が生じるメカニズムを関節ごとに理解していく。 3)基本動作の基礎を理解する。												
〔使用教材、参考文献等〕 基礎運動学 第6版					〔準備学習・時間外学習〕 前もって配布された資料を中心に予習しておくことで、授業の理解につながる。授業後は小テストに向けて復習をすることで理解を深めてほしい。							
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)						
1	股関節の運動学 1					骨盤・股関節の構造を学び、理解する。						
2	股関節の運動学 2					骨盤の運動に作用する筋肉を覚える						
3	股関節の運動学 3					股関節の屈曲・伸展の作用筋を覚える。						
4	股関節の運動学 4					股関節の外転・内転の作用筋を覚える。						
5	股関節の運動学 5					股関節の外旋・内旋の作用筋を覚える。						
6	膝関節の運動学 1					膝関節の構造を学び、理解する。						
7	膝関節の運動学 2					膝関節の屈曲・伸展に作用する筋肉を覚える。						
8	足関節・足趾の運動学 1					足関節・足趾の構造を学び理解する。						
9	足関節・足趾の運動学 2					足関節の背屈・底屈に作用する筋肉を覚える。						
10	足関節・足趾の運動学 3					足関節の回内・回外・外返し・内返しに作用する筋肉を覚える。						
11	足関節・足趾の運動学 4					足趾関節の屈曲に作用する筋肉を覚える。						
12	足関節・足趾の運動学 5					足趾関節の伸展に作用する筋肉を覚える。						
13	下肢の運動学まとめ 1					下肢に係る運動についてグループワークを通して学習を深める						
14	下肢の運動学まとめ 2					下肢に係る運動についてグループワークを通して学習を深める						
15	下肢の運動学発表					下肢の運動について学んだこと、覚える必要のあるものを発表する (授業内課題25点分:発表10点・小テスト提出15点)						
16	基本的動作 1 (背臥位→寝返り→起き上がり)					基本動作を構成する要素を学び、理解する。						
17	基本的動作 2 (座位→立ち上がり→立位)					基本動作を構成する要素を学び、理解する。						
18	歩行 1 (歩幅・ストライドなど)					歩行時の歩幅やストライドなど用語の意味を理解し覚える。						
19	歩行 2 (ロッカーファンクション機能など)					ロッカーファンクション機能とはどのようなものなのか理解し覚える。						
20	歩行 3 (イニシャルコンタクト・ローディングレスポンス)					歩行周期の各メカニズムを理解し覚える。						
21	歩行 4 (ミッドスタンス・ターミナルスタンス)					歩行周期の各メカニズムを理解し覚える。						
22	歩行 5 (プレスイング・イニシャルスイング)					歩行周期の各メカニズムを理解し覚える。						
23	歩行 6 (ミッドスイング・ターミナルスイング)					歩行周期の各メカニズムを理解し覚える。(授業内課題歩行レポート提出25点分)						
24	歩行 7 (病的歩行)					各疾患別の歩行の問題点を理解しその特徴を覚える。						
25	顔面・頸部の運動学 1					顔面・頸部の運動に作用する筋肉を覚える						
26	顔面・頸部の運動学 2					顔面・頸部の運動に作用する筋肉を覚える						
27	運動に必要なエネルギーについて					運動に必要なエネルギーについて学ぶ						
28	復習					後期の運動学で学んだ内容を復習する						
29	期末テスト					後期の運動学で学んだ内容を試験にて想起させ、覚えていない部分などの抽出する。						
30	期末テスト返却・復習					後期運動学期末試験を通して、出来なかった部分の復習を行う。						
〔評価について〕 評価は小テストと期末試験で行う。 小テスト (50点) 期末テスト (50点)					〔特記事項〕 実践が入る授業では、動ける服装をすること。							

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	集中 授業	担当教員		
授業科目名		田中 信一								
いのちの倫理		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	15 1	授業 回数	8	
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する） 現在、人間の生命をめぐるどのような問題が生まれ、どのような議論があり、何が問われているのかを学び、医療における倫理観と患者やその家族の思いを推測できる力をつける授業を行なう。授業では、問われている内容を理解し、個人ワーク、グループ共有により理解を深めるため、積極的に参加してほしい。理学療法士として医療・介護施設に勤務している教員が実務経験に基づいて理学療法士養成に向けた授業を展開する。										
〔到達目標〕 ・いのちの「始まり」と「終わり」の間に起こる様々な問題に対し、患者、医療者、患者の家族の視点より推測できる。 ・現代医療における生と死、医療の問題を説明できる。										
〔使用教材、参考文献等〕 配布資料										
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)					
1	倫理とはなにか。生命倫理の最初の問題あなたは、薬や医療設備が足りないとき、治療するひとを選んでもいいと思いますか。				倫理と道徳、法律との違いを区別できる。					
2	いのちの終わりは誰がきめるのか。 自己決定権、延命治療、安楽死、尊厳死、セデーション（鎮静）				生命の尊さを認識し、死に関わる倫理的問題を理解し、自分の考えを述べることができる。					
3	いのちの始まりはいつか 人工妊娠中絶、				生命の尊さを認識し、生命誕生に関わる倫理的問題を理解し、自分の考えを述べることができる					
4	いのちの始まりはいつか 出生前診断				生命の尊さを認識し、生命誕生に関わる倫理的問題を理解し、自分の考えを述べることができる					
5	告知とインフォームドコンセント 告知の是非について				告知における難しさを認識し、自分の考えを述べることができる。					
6	こどもの医療、判断能力は誰が決めるのか。子どもの人権と親権 New トピックス				子どもの知る権利における難しさを認識し、自分の考えを述べることができる。					
7	生体臓器移植 一般の死と脳死の違いについて				臓器移植に関わる倫理的問題を理解し、自分の考えを述べることができる					
8	総括				授業全体を通して学んだ内容を振り返り、授業内容に対する理解を深める。					
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
〔評価について〕 評価はレポートで行う。 評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講区分	集中	担当教員		
授業科目名				必修・選択	必修	授業形態	講義	田中 信一		
理学療法基礎セミナー								時間数(単位)	30(2)	授業回数
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 理学療法士として対象者に接するために必要な接遇面やリスク管理を意識した検査測定について学ぶ。										
〔到達目標〕 対象者への配慮・接遇について理解して対応できる。 リスク管理を意識しながら基本的な検査測定が実施できる。										
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕					
配布資料					授業後には実施内容について復習をすること。 授業時間以外にも実技練習を実施すること。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	【オリエンテーション】授業の目的、試験概要説明					授業の目的を理解できる。 実技試験の概要を理解し試験に向けた準備ができる。				
2	接遇について					理学療法士として必要な接遇について理解し、意識した行動ができる。				
3	認知機能検査					認知機能検査が実施できる。				
4	血圧・脈拍測定					バイタルサイン(血圧、脈拍)の測定が実施できる。				
5	形態測定 上肢					形態測定が実施できる。				
6	形態測定 下肢					形態測定が実施できる。				
7	関節可動域測定① 上肢					関節可動域測定が実施できる。				
8	関節可動域測定② 上肢 頸部、胸腰部					関節可動域測定が実施できる。				
9	関節可動域測定③ 頸部、胸腰部、下肢					関節可動域測定が実施できる。				
10	関節可動域測定④ 下肢					関節可動域測定が実施できる。				
11	徒手筋力検査① 上肢					徒手筋力検査が実施できる。				
12	徒手筋力検査② 上肢 体幹					徒手筋力検査が実施できる。				
13	徒手筋力検査③ 体幹 下肢					徒手筋力検査が実施できる。				
14	徒手筋力検査④ 下肢					徒手筋力検査が実施できる。				
15	実技試験					実技試験を通じて自己の達成度について振り返りを行う。				
〔評価について〕 レポートにて評価 レポートは以下について記載 患者役、採点官、試験内容に関する報告書					〔特記事項〕					

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部	学年	2	開講 区分	後期	担当教員 谷本 幸洋			
授業科目名	整形外科学	必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
現役の整形外科医師による、高頻度に遭遇する整形外科疾患の概要を理解し、単に臨床上の基礎知識にとどまらず幅広く疾患を俯瞰して診ることが出来るよう運動器疾患の診断、治療・後療法、予防法について学修する。学生にはスポーツ医学の視点も含め興味関心を持って望んで欲しい。									
〔到達目標〕									
各整形外科疾患を全身性疾患から胸郭より上位の各疾患について、概要・疫学・症状・診断・治療について理解できる。									
〔使用教材、参考文献等〕 標準 整形外科学:医学書院					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書んでくこと。 授業後は復習をして用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	胸椎・腰椎(概略-腰椎変性疾患)				胸椎や腰椎の椎間板ヘルニア始め運動器障害における疾患を理解できる。				
2	腰椎(急性腰痛発作-脊髄腫瘍)				整形外科的腰椎疾患から原発性腫瘍と転移性腫瘍の病態まで把握できる。				
3	股関節(概略-ペルテス病)				小児から成人に至る股関節の主な疾患を理解できる。				
4	股関節(大腿骨頭すべり症-骨盤輪の疾患)				小児から成人に至る股関節の主な疾患を理解できる。				
5	股関節(股関節の手術)、膝関節(概略-発育期の膝関節障害)				股関節手術・手術後の状態及び膝関節に罹患する発育段階にける傷害を理解できる。				
6	膝関節(半月板損傷-膝周囲の関節包・滑液胞の異常)				膝関節における損傷や異常について理解出来る。				
7	足関節と足趾				足関節と足趾に関わる疾患を理解できる。				
8	外傷総論、軟部組織損傷				機械的外力などにより、結合組織が損傷を受けた状態を理解できる。				
9	骨折・脱臼(上肢の外傷)				骨折・脱臼(上肢の外傷)の病態について理解できる。				
10	骨折・脱臼(下肢の外傷)				下肢の骨折と脱臼について理解できる。				
11	脊椎・脊髄損傷(脊髄損傷)				脊椎・脊髄損傷について理解する				
12	末梢神経損傷				代表的な末梢神経損傷と整形外科を理解する。				
13	スポーツ損傷				スポーツ障害・外傷について理解する				
14	まとめ				1年間の講義についてのまとめ				
15	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕				